



プレスリリース

一般社団法人 日本原子力学会

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、多くの方々が犠牲となられ、また被災されましたことについて心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

一般社団法人日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる学術・技術専門家集団として社会への情報提供を行うため、本会の主要な活動等について、随時プレスリリースを行っています。

今回は、「Tokyo PSAM 2013」開催のお知らせです。

「Tokyo PSAM 2013」開催のご案内
—原子力安全とリスク評価活用のメッセージ—

PSAM (Probabilistic Safety Assessment and Management)とは原子力安全とリスク管理を語る国際会議です。PSAM 会議は隔年開催、欧米圏で開催される世界唯一、20年以上の歴史を誇ります。2000年には第5回PSAMがアジアで初めて大阪で開催されました。

2011年3月の福島第一原子力発電所事故の意味を真摯に受け止め、我が国からトピカルPSAM Tokyoの開催を国際PSAM協会(IAPSAM)に提案いたしました。トピカルPSAMは、国際PSAM協会としては初めての試みですが、我が国が世界の原子力安全に貢献するために、開催する重要な意義があると考えます。

開催期間：平成25年4月14日(日)～18日(木)(14日：受付開始、18日：テクニカルツアー)

開催場所：ハイアットリージェンシー東京(新宿)

主催：Tokyo PSAM 2013 組織委員会 (<http://www.psam2013.org/>)

共催：一般社団法人日本原子力学会 (<http://www.aesj.or.jp>)

参加費：無料

プログラム：

4月15日(月) (同時通訳あり)

09:00～09:15	Opening Remark	二ノ方壽 (ミラノ工科大学) 山口彰 (Tokyo PSAM2013組織委員会 実行委員長)
09:15～10:45	Opening Plenary Session	近藤駿介氏 (原子力委員会委員長) George Apostolakis 氏 (NRC委員)
11:00～12:30	Special Plenary Session	更田豊志氏 (原子力規制委員会委員) 小森明生氏 (東京電力常務)
14:00～17:15	Panel Discussion 1,2	モデレータ：Don Wakefield 氏, Martin Fackler 氏, パネリスト：Nathan Siu 氏 (NRC) 他

4月16日(火) (同時通訳なし)

09:00～10:30	Invited Session	(地震安全、津波安全他、4テーマの招待講演)
10:45～17:15	Organized Session General Session	(福島第一原子力発電所事故に関する論文発表) (PSA、リスク管理に関する一般論文発表)

4月17日(水) (同時通訳なし)

09:00～12:15	Organized Session General Session	
13:30～15:00	Closing Session	二ノ方壽 (ミラノ工科大学) 山口彰 (Tokyo PSAM2013組織委員会 実行委員長)



会議のトピックス (4月15日)

- 4件の基調講演- 福島第一事故を踏まえ、日本の原子力安全を確立する道筋を探る。
 - ・ 近藤駿介氏 (原子力委員会委員長)
日本の原子力安全のどこに問題があったか。今後どうするべきかについて総括を頂きます。
 - ・ George Apostolakis 氏 (NRC委員)
米国から見て、原子力安全について日本はかくあるべしという重要な提言をお話し頂きます。
 - ・ 更田豊志氏 (原子力規制委員会委員)
原子力規制委員会の規制方針と、我が国の安全規制の考え方についてお話し頂きます。
 - ・ 小森明夫氏 (東京電力常務)
事故の概要及び東京電力の安全性向上への取組みをPRAの観点からお話し頂きます。

➤ パネル討論

各分野の第一線でご活躍の著名な国内外の専門家を交えてパネル討論を開催します。

(1) 原子力安全とリスク評価について最も重要な技術課題は何か。世界の安全の専門家は何をすべきか。不確かな高影響事象にどう備えるのか。リスク評価の役割と使い方は。その実効性を社会にどのように適切に説明するのか。

(2) 不確かで曖昧なハザード、極端事象について、政策決定者や安全に関する責任機関の意思決定はどのような原則に基づきどのようになされるのか。それに安全の専門家はどうか。それに安全の専門家はどうか。それに安全の専門家はどうか。それに安全の専門家はどうか。

モデレータ: Don Wakefield 氏 (米国、リスク評価、米国の学協会規格)

Martin Fackler 氏 (ニューヨークタイムズ東京支社長)

パネリスト (予定): Nathan Siu 氏 (NRC、安全規制)

Jerzy Grynblat 氏 (スウェーデン、原子力)

岡本孝司氏 (東京大学、シビアアクシデント)

Robert Geller 氏 (東京大学、地震)

Jim Chapman (米国、リスク評価)

加藤功氏 (東北電力、電気事業者)

久郷明秀氏 (原安進、原子力安全)

尾本彰氏 (東京工業大、安全性)

Wolfgang Kroeger 氏 (スイス、リスク評価)

会議のトピックス (4月16日、4月17日)

- リスク評価、原子力安全に関する第一人者にキーノート講演をいただき、一般セッションを開催します。リスク評価、外部事象に関する技術的・専門的議論を深めていただけます。

- ・ 地震安全: Peter Yanev 氏, 高田毅士氏

- ・ 津波安全: 佐竹健治氏, David Tappin 氏

- ・ シビアアクシデントとPRA: Jason Chao 氏, David Johnson 氏, Joon-Eon Yang 氏, 倉本孝弘氏

- 最終日 (4月17日) の閉幕セッションでは、会議の総括を行うとともに、原子力安全に向けてのメッセージを発信します。PRAの深い理解と機敏な活用によらずして、“想定外”への備えとリスクの抑制は達成できません。

本会議の取材申し込みについて

- ・ 4月14日 (日) 正午までに、氏名・社名・連絡先、取材を希望されるすべてのセッション名 (または会場名) を記載の上、メール (info@psam2013.org 問い合わせ先: 大田貴之) にてお申し込み下さい。
- ・ 講演者、発表者、関係者への取材は原則お断りしております。
- ・ 会場内の電源はご使用いただけません。また、分配器音声ライン (音声信号の供給)、取材用ステージ等のご準備はございませんので、予めご了承下さい。
- ・ その他の取材上の注意事項につきましては、お申し込みを頂いた際にご連絡させていただきます。